

3級 【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃>

- ・課題のシルエットは、少しシェイプしたもののなので、脇線と前後ウエストダーツでバランスよく絞りをいれて記入されていることがポイントとなる。
- ・前身頃はバストダーツを袖ぐりや衿ぐりに分散・展開した結果、袖ぐりや衿ぐりが大きすぎ、浮きすぎとして減点されたもの、また、分散・展開しないためにダーツが大きく残りすぎているものもあった。
- ・後ろ身頃も同様で、前身頃とバランスをとり適度な分量を袖ぐりや衿ぐりに分散・展開し、残りを肩ダーツとしてとる。この時、ダーツ分量は減っているのでダーツの長さも原型より短くしバランスをとるべきである。
- ・前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広がる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは、原型と同じ幅あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。袖ぐり線の修正がうまくできないため、肩線前後のつながりが角になり、袖のシルエットを崩してしまったものもあった。

<衿>

- ・今回の衿はシャツカラーであるため衿腰の高さにあったねかし分量や衿先の形状が絵型通りにできているかがポイントになる。事前の練習時にしっかり確認して試験に臨んでいただきたい。
- ・身頃のネックラインカーブにあった衿付け線が表現されておらず（衿ねかしやカーブ線）組み立てた衿の返り線が首についたり、離れたりしているものが多くあり減点されている。今一度身頃の衿ぐりと衿の形状の関係性を復習していただきたい。

<袖>

- ・袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山寸法を定寸（既習の寸法）で製図しており、今回の出題シャツブラウスの袖山の高さより高いものがあったり低いものもあった。袖山の高さは袖幅にも影響するので注意する。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったりするものが目立った。また、後ろに振れているものもあった。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは必要な記号などを記入することで確実に点数をとれるようになったと思われる。
- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状が適切であることが求められる。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。
- ・ファーストパターンを作成するにはトレーシングペーパーなどで脇線、肩線などを突き合せた状態で袖ぐり線、衿ぐり線、裾線その他の線のつながりを確認し、修正して完成させることが必要である。
- ・課題に設定された着丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタン・ステッチなどが記入されていること。最後に衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパタ

ーンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。

- ・最後に、ファーストパターンとは作図パターンを別紙にパーツごとにトレースして、名称、記号、合印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングで作業をおこなった場合は展開した原型や作図、展開パターンの添付も必要である。